



秦野市立北幼稚園

令和7年3月25日



「ささら踊り」を教えていただきました

1月17日に、北地区の伝統芸能を子ども達に伝え、未来に繋げていくため、秦野ささら踊り保存会の皆様のご協力でささら踊り体験を行いました。扇子を手に、ささら（割った竹を束ねた楽器）や太鼓、歌に合わせて踊りました。日頃行っている体操やダンスとの違いもあり興味津々。しなやかで美しい動きも魅力的だったようです。これからも遠い昔に思いを馳せながら、園で踊っていきたいと思います。



「秦野ささら踊り」とは…北地区の伝統芸能で、江戸時代に始まり大正時代末には踊られなくなりました。昭和51年に有志により復興され、現在まで踊り継がれています。平成20年2月に神奈川県指定無形民俗文化財になりました。この踊りは少女だけの盆踊りとして7月13日～16日の間、各農家の庭先を回って踊り、その後ろを若者がついてまわったそうです。

遊んでくれた中学3年生のお兄さん・お姉さん、卒業おめでとう

3月10日に北中学校の体育館に行き、卒業式を目前に控えた3年生との交流会をしました。運動会のサポートや園で一緒に遊んでもらったことなどから、子ども達は中学生のことが大好きです。日頃から、道ですれ違った時も笑顔で「こんにちは」とあいさつし合う姿が見られていました。

最後の交流会では、園児、中学生がそれぞれ、歌を披露しました。大きなステージに緊張気味園児でしたが、中学生が歌に合わせ、手拍子を打ってくれたり、掛け声をかけてくれたりし、だんだん、歌声も元気になっていきました。中学生は卒業式に歌う曲を聞かせてくれました。高音の優しい声と低音の力強い声が重なり合う素晴らしい合唱で、子ども達が聞き入っていました。同じ北地区で育った中学3年生、素敵な未来を切り開いてほしいですね。そして、楽しい思い出をありがとうございました。



年長児から保護者の方へありがとう

卒園を控え、園生活でどなたにお世話になったかを振り返った時に、おうちの方、友達や先生、小中学生、地域の方などがあがりました。地域の方には手紙や絵を書いて届け、「ありがとう」を伝えました。

そして一番近くで赤ちゃんの頃から自分達を大切にしてくれているおうちの方に感謝の気持ちを伝えたいと2月21日に年長児が「2年間ありがとうの会」を行いました。頑張っている時、何かができるようになった時に保護者の方はとても喜んでくれるという経験から「自分達の成長した姿を見てもらうことで『ありがとう』の気持ちを伝えたい」と自分達で準備を進めていきました。当日に向けて、友達と想いを伝え合い、相談し合う姿、うまくいかなくても諦めずに取り組む姿を見ると、2年間の積み重ねの大きさ、子ども達が様々な経験を力に変えて伸びていく力は素晴らしいと改めて感じました。



年少児から年長児へありがとう

年長児を招待し年少児がお別れ会を開きました。「ゲームをしたら喜ぶよ」「内緒でプレゼントを作ろう」など、年長児のことを考えて計画を立て、自分達で会を進めていきました。

この1年間、年少児は、生活に必要なことを教えてもらうだけでなく、夏祭りや誕生会など、年長児が中心になって進める活動の中でたくさんの楽しい経験ができました。

また年長児にとっても、小さな友達の気持ちを考え、思いやり、相手のために何ができるか考えながら生活してきたことは素晴らしい経験になりました。

4月からは、年少組の子ども達が北幼稚園の頼れるお兄さん・お姉さんになっていくことに期待しています。楽しみです。

